国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

２０１３年９月１０日　　北海道社会保障推進協議会　Tel:011-758-2648　FAX:758-4666

住民・病院・行政が一体となり、白老町立病院を再生させよう

「地域医療を考える集い」大橋会長が講演　署名は４０００筆超える

９月７日、「地域医療を考える集い」が開催され（実行委員会主催）、北海道社保協の大橋晃会長（勤医協中央病院名誉院長）が、「白老町立病院の維持・再生のために」と題して講演しました。

集会には、町民をはじめ、副町長や町の担当課長、町議会議長、病院の関係者など約１００人が参加しました。

大橋会長は、町立病院を再生させるためには、「住民のニーズに応える医療を拡大し、必要な人材と設備を確保して経営を改善すること」が基本であると指摘し、具体的には、「必要な医師体制の確保」「医療・介護の連携の強化」「アメニティの改善」など、他地域の先進例も紹介しながら提案しました。

また、「病院の廃止は、患者・住民の負担増だけでなく、国保財政に大きな影響を与える」「医療・介護こそ、地域にとって大きな雇用の場」と強調しました。最後に、沢内村の経験をもとに、首長の姿勢とともに、「住民・病院・行政が一体となって、町立病院を再生していこう」と呼びかけました。

参加者からは「町立病院の役割がよくわかった」「病院がなくなったら大変なことになる。署名を広げなくては」「やはり、町や病院まかせではよくない」「私たちも病院をささえなければ」などの感想が出されました。

守る会　町長と2度目の懇談

「白老町立病院を守る」運動は、まちの雰囲気も変わってきています。白老町立病院を守る会は、町民宅や企業もまわり、病院の存続を求める署名はすでに、当初目標の4000筆（有権者の4分の1）を上回っています。同会は、8 月 27 日には、町長や町議会議長、病院長と2回目の懇談、要請を行いました。戸田町長は「町民の意志として重く受け止めています」と回答しました。会は、さらに署名活動を続けています。

自治体病院等ベッド減少すすむ　病院３６９床減/診療所化も　診療所は５床減

医療機関名	時期	病床数	医療機関名	時期	病床数
順天病院（北広島市）	4月	240→120床　▲120	町立長沼病院	4月	199→128床　▲ 71
市立芦別病院	4月	189→169床　▲ 20	新ひだか町立静内病院	4月	80→ 58床　▲ 22
町立厚岸病院	4月	88→ 44床　▲ 33	町立別海病院	10月	99→ 84床　▲ 15
市立札幌病院/（旧静療院）	4月	市立病院　772→810 床 ＋38/旧静療院　162→60床 ▲102　計 ▲ 64			
京極町国保病院	4月	43→ 19床　▲ 24　（診療所化）			
羅臼町国保診療所	7月	19→ 14床　▲ 5　羅臼診療所は2008年4月に診療所化しました			

2012年度「北海道自治体病院等広域化・連携構想」の取り組状況より（2012. 4～2013. 3）

社会保障制度を解体する「改革国民会議」報告書　医療・介護提供体制改革が最大の任務

病院・病床減らし　病棟から追い出し早め、「安上がり」の在宅へ

報告書では、社会保障４分野の改革の項目で、「国民会議の最大の任務は、前回の社会保障国民会議で示された医療・介護提供体制改革に魂を入れ、実効性と加速度を加えること」と強調しています。

政府は、「団塊の世代」がすべて75歳以上になる2025年に、全病床数が２０２万床必要と試算しています。改革案は、現在１６６万床（2011年）を増やさず、１５９万床に削るものです。強制的に平均入院期間を短くして、態勢が整っていない「安上がり」の在宅へ誘導しようとしています。

そのため、条件を強化して医療機能を分けて病床数を減らし、都道府県ごとの医療計画、介護計画（地域包括ケア計画）をさらに強化することを狙っています。